

【社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会】

# 2020年（令和2年）度 事業報告（概要）

（2020. 4. 1～2021. 3. 31）



**Tsunagu Nara**

## ～ INDEX ～

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| I : 理念                      | 3  |
| II : 基本方針                   | 3  |
| III : 運営方針                  |    |
| 1. 障害者支援の充実                 |    |
| 2. 専門性の高い支援の提供              |    |
| 3. 経営基盤に向けた取り組み             |    |
| 4. 人材育成・定着にむけた体制整備          |    |
| 5. 地域福祉の推進                  |    |
| IV : 2020 年度(令和 2 年度)事業総括等  | 4  |
| V : 運営事業 MAP                | 7  |
| VI : 組織図                    | 8  |
| VII : エリア及び事業別事業計画          |    |
| <高取エリア>                     | 9  |
| 1. 障害者支援施設「やすらぎの丘・たかとりワークス」 |    |
| ①生活介護事業                     | 10 |
| ②施設入所支援事業                   | 22 |
| ③短期入所事業                     |    |
| ④日中一時支援事業(市町村事業)            |    |
| 2. 生活介護事業「スクラム」             | 23 |
| 3. 生活介護事業「クオッカ」             | 27 |
| 4. 就労継続支援 B 型事業「パン工房マツダ」    | 28 |
| 5. 共同生活援助事業「ひなた荘」「ホームヴィレッジ」 | 30 |
| 6. 相談支援関係                   |    |
| ①相談支援事業「りあん」                | 31 |
| ②障害者就業・生活支援センター事業「ブリッジ」     | 33 |
| ③奈良県障害者総合相談圏域支援事業           | 37 |
| <奈良エリア>                     | 40 |
| 1. 就労継続支援 A 型事業             | 42 |
| 2. 生活介護事業「野の花舎」             | 44 |
| ①日中一時支援事業(市町村事業)            |    |
| 3. 共同生活介護事業「はなばたけ」          | 47 |
| ①短期入所事業                     |    |
| 4. 相談支援関係                   |    |
| ①相談支援事業「りあん」…上記<高取エリア>に記載   |    |
| ②障害者就業・生活支援センター事業「コンパス」     | 49 |
| <本部>(総務)                    | 51 |
| VIII : 年間研修実績               | 52 |
| IX : 年間行事実績                 | 53 |
| X : 年間開所実績・職員勤務日            | 54 |

## I：理念【地域で 地域と共に歩み 生きる】

### II：基本方針～地域から必要とされる、信頼ある組織になるために～

1. 主体性の尊重：その人らしく生きること。人生の主人公であり続けること。
2. 地域福祉の積極的な推進：地域から必要とされること。役割を果たすこと。
3. 信頼ある法人運営：安心・安全を提供できる法人であり続けること。

### III：運営方針

#### 1. 障害者支援の充実

- ①利用者の意思決定支援を中心に、個別支援計画の質の向上とサービス等利用計画との有機的な連携を図りながら、利用者本人が充実した日々を送れるように支援します。
- ②高齢化や有病率の増加により、医療と福祉の高度な連携が求められています。それぞれの役割を明確にしなが、関係機関との連携を図っていきます。
- ③新たなグループホームの設置や日中活動環境の改善等を図り、利用者ニーズに即した支援が提供できるようにします。

#### 2. 専門性の高い支援の提供

- ①強度行動障害のある方に対する支援スキルの獲得をすべての職員に求め、利用者に応じた適切な個別支援ができるようにします。
- ②高齢化等に伴う医療的ケアの必要性のある利用者に対して、継続的な支援ができるように、喀痰吸引など必要な支援スキルを計画的に獲得させます。
- ③個別支援計画等を職員間で共有し、チームでの支援を基本とした体制作りを行います。

#### 3. 経営基盤に向けた取り組み

- ①法人全体でコスト意識の向上を図ります。
- ②リスクマネジメントを強化し、法令遵守のためのマニュアル作成を行います。
- ③委託費・委託先、備品購入先・方法など、すべての取引について再検討を行い、経費削減を図ります。
- ④事業形態や人員配置等を見直し、効率的かつ効果的な事業運営を図ります。

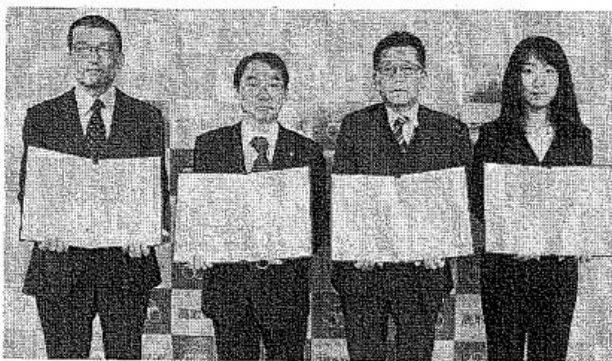
#### 4. 人材育成・定着にむけた体制整備

- ①CO会議において人材育成に関する協議を定期的に行い、職場内研修を計画的に実施すると共に、外部研修への積極的な参加を推進します。また、虐待防止にむけた常設の検討会をL会議で開催し、良質かつ適切な支援の実施に向けた人材育成を行います。
- ②新規採用職員に対するチューター制度の導入と経験年数に応じた計画的な職場内研修を実施します。
- ③年 2 回の面談を通じた職場環境の改善と、円滑な組織内のコミュニケーション



## 高取初の「福祉避難所」

町と特養など4施設が協定



福祉避難所の設置運営に関する協定書を取り交わした中川裕介町長（左から2人目）と各施設の代表者＝19日、高取町役場

高取町と町内の特別養護老人ホームや障害者支援施設4施設は19日、「福祉避難所」の設置運営に関する協定を結んだ。災害時に特別な配慮が必要になる高齢者や障害者を受け入れる。町で福祉避難所が指定されるのは初めて。

これまで町では要配慮者も一般の指定避難所で受け入れる想定だった。今回

の協定で、福祉避難所の設置運営費用は町が負担し、開設期間は基本的に7日以内とするなどのルールを明記した。対象となる町内の

「雅乃郷」▽同「あけみどり」▽同「やすらぎの丘・たかとりワークス」。これら4施設について町は今月初旬に全戸配布した総合防災マップに掲載したほか、6月の町広報紙にも掲載して周知を図る。

県地域福祉課によると、福祉避難所は今年3月1日現在で県内39市町村のうち33市町村で259カ所が指定されている。中川裕介町長は「各施設で10人程度受け入れてもらう予定。先進事例を参考にしながら、協定に実効性を持たせていきたい」と話した。

まず初めに、2020年12月末に「やすらぎの丘・たかとりワークス」で発生しました新型コロナウイルス感染症の集団発生について、利用者やそのご家族、関係者の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。また、現在においても、感染防止策として、入所及びグループホーム入居者の一部利用者には、帰省や外出の自粛にご協力を頂いていますことを、心より御礼申し上げます。

さて、令和2年度は年度当初から新型コロナウイルス拡大防止策として、全国に緊急事態

宣言が発令され、教育機関の休校や企業活動の一部停止などが実施されました。法人においても、令和2年3月から2か月間にわたり、帰省・外出についての自粛を利用者家族に求めました。利用者及びご家族には、大変ご迷惑をおかけしましたが、一人の感染者も出さずなく、乗り越えることができました。その後も、感染対策備品が全国的に枯渇する中、ご家族や関係者からマスクや消毒用アルコール液を提供していただき、感染対策を行うことができました。恒例イベントである「夢まつり」や「クリスマス会」も中止し、『何とかワクチン接種まで頑張ろう』と利用者と共に日々の活動を行ってきました。

令和2年度の事業展開としては、令和2年4月に「なら障害者就業・生活支援センターコンパス」[奈良市神殿町]、6月に生活介護事業所「スクラム」(定員20名)[橿原市観音寺町]、8月に共同生活援助事業所「れもん」(定員4名)[河合町]、令和3年1月に生活介護事業所「クオッカ」(定員20名)[高取町観音寺]を開所しました。多くの障害のある方のニーズに応えるための機関の設置と共に、利用者の活動内容や環境の改善を図りました。

また、財務状況については、職員賞与の削減や業務委託業者の変更、各種保険内容の見直し、賃料の値下げ交渉等により、支出の削減に努めました。さらに、新たな事業所開設し定員を削減することにより、給付費単価の改善や加算請求の追加などが実現し、事業収入を増やすことができました。建物取得や各種手続きに関する費用、ランニングコストにより借入金や支出が一時的に増加しましたが、中長期的な視点からは財政安定化に大きく寄与すると考えています。

しかし、年末に職員を対象としたPCR検査の実施から、最終的には利用者25名・職員18名・利用者家族2名の集団感染となりました。一度に多くの利用者が感染した為、奈良県が確保していた療養施設で対応することができず、奈良県と協議の結果、法人施設で療養していただくことになりました。医療設備のない生活施設で、医療に関する知識がないことは、対応にあたる職員にとって大きな不安となり、さらに自身の家族に感染させてはならないというプレッシャーとも戦っていました。そして、いつもとは違う環境や行動制限の中で混乱する利用者の緊急対応に備え、陽性者や濃厚接触者の傍の床等で、マスクやゴーグル、防護服をつけたまま仮眠をとっている職員もいました。

PCR検査をするたびに感染者がでることが繰り返され、出口の見えないトンネルに入ったように感じた時期もありましたが、奈良県や県立医大感染症センター、中和保健所、県内社会福祉法人等からの人的・物的両面による厚い支援とともに、利用者家族や家族会、育成会からの心温まるメッセージに救われました。

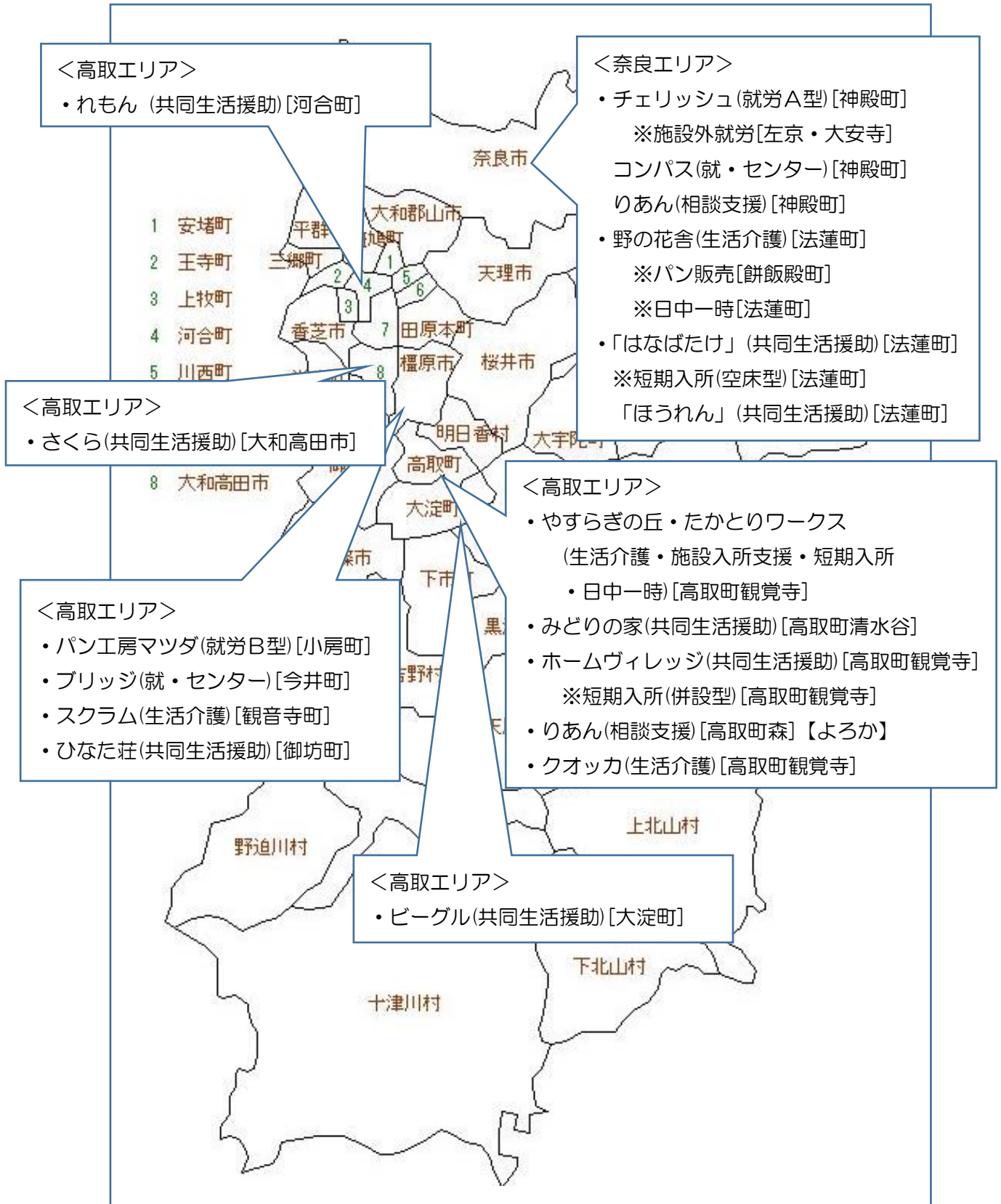
そして令和3年2月4日の終息宣言後は、感染対策を十分に実施した上で、徐々に事業を再開しました。事業再開にあたり、従来の活動内容や構成、担当者を大幅に変更し、感染対策を優先させた活動を実施しています。また、入所と一部のグループホーム利用者については、帰省及び外出の自粛をお願いしています。

法人としてはワクチン接種までを第一目標として、体調管理やマスクの着用、手指消毒などを実施し、接種後については、利用者の健康状態等を考慮しながら、本来の活動再開に向けた準備を進めていきたいと思っております。合わせて、今回のような感染症を含む緊急時にも迅速に対応できる危機管理体制の整備を早急に進めてまいりたいと思っております。

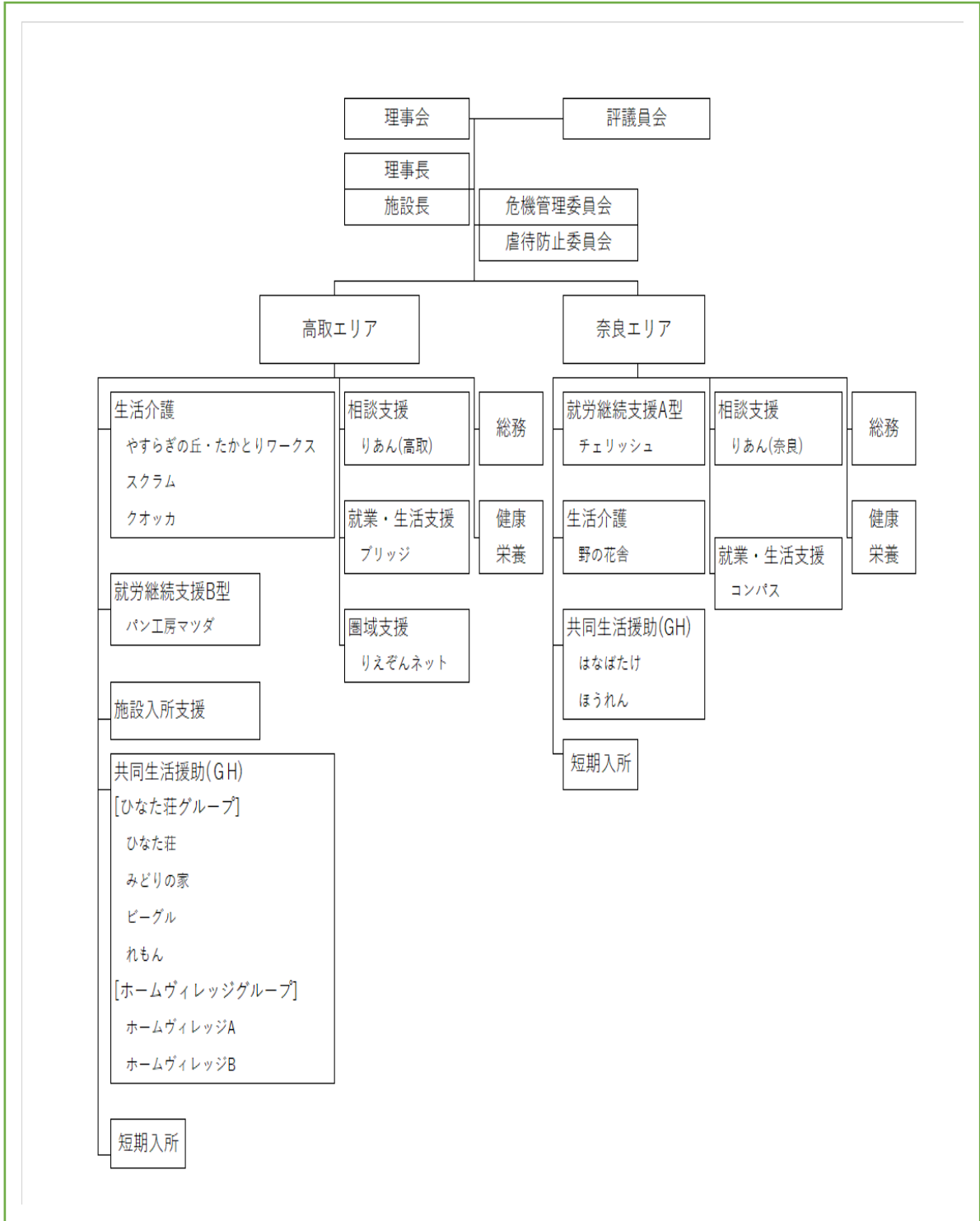
最後になりましたが、令和2年度も法人を支えてくださった関係者の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、年末からの苦難を乗り越えた利用者とその家族、職員とともに、来年度も法人理念の実現に向けた活動に取り組んでいくことを誓い、令和2年度の事業活動報告と致します。

理事長 山岡 亨

V : 運営事業 MAP



VI：組織図



VI：エリア及び事業別事業報告(案)